

# 磯野員昌と新庄城

新旭町新庄に所在する新庄城は、天正元（1573）年7月の織田信長の高島郡攻略後、磯野員昌が高島郡の支配の拠点とした城郭です。

員昌は浅井長政につかえ、六角氏に対して最前線となる佐和山城の城主でした。元龜元（1570）年6月の姉川の合戦では、浅井軍の先鋒として出陣し、織田軍の十三段の備えのうち、十一段まで撃破する猛攻は、「員昌の姉川十一段崩し」の逸話として残っています。



新庄城跡の中心部を取り囲む土塁（土手）。大善寺周辺に残る。

城に7か月間籠城しましたが、やむなく信長に降りました。員昌と籠城兵は、船で高島まで移送されました。信長は員昌に対し、高島郡内の支配を命じます。この時の拠点となった城が新庄城です。

員昌は、善積荘と木津荘の境界争いの裁定など、郡内の民政にあたるほか、元龜元年5月に千草越を通過していた信長を鉄砲で狙撃し、逃亡していた杉谷善住坊を、天正元年9月に高島郡堀川村の阿弥陀寺で捕らえ、岐阜に送っています。

天正年間の初め頃に、信長の甥の織田（津田）信澄を養子にし、天正4（1576）年には「今津より北」を員昌が、「今津より南」は、信澄が統治したとされています。

新庄城は、佐々木越中氏が城主であった清水山城の出城と伝えられ、戦国時代には浅見氏や多胡氏が城主であったと伝えられています。

員昌が在城していた新庄城について、明治時代の新庄村の絵図には、大善寺の東・西・北の3方に土塁（土手）や堀の痕跡と考えられる「口の字」に囲む土地割が見られ、現在も土塁が残っています。この囲まれた

空間が、新庄城の中心部と推定されています。

この方形の区画を中心として、「西手」「東町」の小字名が残るまでの間と、「二ノ丸」「三ノ丸」の地名が残るエリアが、新庄城の範囲とされています。

国道161号線バイパスに伴う「二ノ丸」「城ノ内」の発掘調査では、堀や土塁、石敷、井戸などが発見され、城下であった可能性が推測されました。

また、大善寺の北側の東西に伸びる道沿いには、新庄城下の町場、東側の南北に伸びる道沿いには、武家屋敷があったことが想定され、員昌によって城下町整備計画がすすめられたと推測されています。

しかし、員昌は天正6（1578）年2月、信長の怒りをつかたため、高野山に入りました。

信長は、信澄が高島郡の一郡支配を命じ、高島郡支配の拠点も新庄城から大溝城に移ります。大溝城下町の建設にあたり、新庄城下から町場の移転も行われました。

（文化財課）

かつて、1町（100m）四方の規模があり、杉谷善住坊が捕らえられた阿弥陀寺。その四隅に設置されていた結界石が境内地に残る。



## 編集者のつぶやき

今回の表紙は、箱館山で行われたマウンテンバイク大会のダウンヒルレースの様子です。選手の皆さんは、でこぼこ斜面のコースを山の上から勢いよく自転車を走らせておられ、その迫力に圧倒されました。中には転倒する選手もおられますが、すぐに立ち上がり全力疾走。その姿勢は、ぜひ見習いたいものです。

（広報担当S）